

会 議 録

会議の名称	平成26年度 第3回 本荘まちづくり協議会
開催日時	平成26年10月1日(水) 午後2時～午後3時20分
開催場所	広域行政センター 「学習ホール」(3階)
出席者氏名	「出席者名簿(網掛け)」のとおり
欠席者氏名	「出席者名簿」のとおり
会 議 次 第	
1. 開会	
2. 部長挨拶	
3. 会長挨拶	
4. 協議	
○市総合計画・新創造ビジョンの策定について	
5. 次回開催内容説明	
6. 閉会	
会議の経過	別紙のとおり

本荘まちづくり協議会委員名簿

出席者（19名）：網掛け

役職	氏名
会長	渡辺 義弘
副会長	菊地 長司
委員	荘司 仁
委員	田中 准子
委員	高井 重保
委員	保科 慶一
委員	小松 良太郎
委員	佐々木 保之
委員	川津 利幸
委員	小野 秀一
委員	堀 幸子
委員	中嶋 豪
委員	鈴木 登
委員	工藤 久美子

役職	氏名
委員	阿部 里美
委員	伊藤 春美
委員	高原 一心
委員	佐々木 律子
委員	佐々木 亮
委員	小石 裕英
委員	佐藤 留美子
委員	今野 直子
委員	村岡 兼幸
委員	嶋崎 真仁
委員	縄野 博美
委員	中村 鎮
委員	竹内 武

平成26年度第3回 本荘まちづくり協議会 行政出席者名簿

◎市総合計画・新創造ビジョンの策定について

職 名	氏 名	摘 要
企画調整部長	伊 藤 篤	
企画調整部総合政策課		
課 長	原 田 正 雄	
参事兼課長補佐	柴 田 浩 樹	

◎事務局

職 名	氏 名	摘 要
企画調整部地域おこし課		
課 長	今 野 政 幸	
主席参事兼課長補佐	高 橋 孝 紀	
地域おこし班長	菅 野 基	
主 任	高 橋 香 奈 子	

会議の経過

平成26年度 第3回 本荘まちづくり協議会（要旨）

平成26年10月1日（水）

午後2時00分 開会

午後3時20分 閉会

開会（進行：地域おこし課 今野課長）

ご案内の時刻より多少早いのですが、本日出席予定の方が全て揃いましたのでただ今より第3回本荘まちづくり協議会を始めたいと思います。次第に従いまして進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。始めに挨拶で企画調整部長の伊藤が皆さまに挨拶を申し上げます。

企画調整部長 伊藤 篤（部長あいさつ）

平日の貴重なお時間にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日は市長の要請に基づきまして、招集いただきました会議でございます。議題は「市総合計画新創造ビジョンの骨子案」についての説明となっております。この市総合計画でございますが、これは、市の総合的且つ計画的な市政運営のために策定するものでありまして、合併年度、平成17年度に策定しまして、17年度から26年度の期間で策定したものが現行の計画でございます。本年度で最終の計画年度となりまして、来年度以降10年間を見据えた新たな計画を策定しているところでございます。この計画は、市の各政策分野を網羅した総合的な計画で、市政運営の最上位計画に位置づけられるものと考えております。今は策定段階でありまして、全てはまだ策定は終了しておりませんが、今の段階の基本的な構想部分をご説明させていただきたい、このように考えております。またこの後、策定作業が進むわけですが、基本構想、基本計画が策定段階の中で地域の整備方針、このまちづくり協議会には本荘地域のまちづくりビジョン、言い換えますと、由利本荘市発展のために本荘地域が果たすべき役割こういったものを本荘まちづくり協議会でご確認、ご意見をいただきたい、このように考えております。今日はそのような形で進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

地域おこし課 今野課長

続きまして、協議会の渡辺会長から挨拶をお願いいたします。

本荘まちづくり会 渡辺会長

こんにちは。とても素敵な快晴の秋空にお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本日は先ほど部長がおっしゃられましたように、市からの要請による協議会と

ということで、来年度からの市総合計画新創造ビジョンの骨子案についてですね、ご説明をいただきまして、それに皆さんからご質問もしくはご意見等を出していただくという会議であります。是非ひとつ積極的によろしくお願ひしたいと思ひます。簡単ですがよろしくお願ひします。

今野課長

ありがとうございました。事務局職員の紹介につきましては、皆さまにお渡ししてあります会場レイアウトがございますので、それを持って紹介に変えさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。それでは以降の進行につきまして渡辺会長にお願ひしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

協議（進行：渡辺会長）

それでは早速、市の方から(1)骨子案についてご説明お願ひします。

総合政策課 柴田参事兼課長補佐

～説明～

渡辺会長

ありがとうございました。早速質問に入ってよろしいでしょうか。質問のある方挙手をお願ひいたします。

総合政策課 原田課長

～骨子案について補足説明～

渡辺会長

ありがとうございます。ご質問等ございませんでしょうか。

A委員

この中で文章を見ているけれども、例えば国では初めて2060年ですか、1億人という設定をしているわけですが、人口規模を。市としては大変難しいと思うのですけれども、どの程度の人口規模を想定してこれから具体的な基本構想や基本計画を作っていくのかということが非常に興味深いことなので、大変難しい課題だと思うのですけれども、その辺の考

え方、人口目標を設定していくのか、このところを一つ前段でお聞きしたいと思います。
よろしく願いいたします。

原田課長

人口が増えていく推計値ですと、いろんな推計の仕方でも曲線的にいったらどうなるかというものが丁度、高度経済成長、昭和の終わり頃平成の始まりの頃までは一応、将来は増えてくるのだという推計がほとんどの計画にありました。今は、どんなに減っていくのという推計なものですから、ただこの人口の推計につきましては、二つの推計の仕方があります。国立社会保障・人口問題研究所というところがやっている推計の仕方が、一番精度が高いということで、これに基づいた由利本荘市8つの地域別の推計をして合作したものについては今既に推計値は出ております。これに雇用だとか産業だとかいわゆる政策的な事業を貼り付けることによってどれだけブレーキをかけていけるのかは今度は積み上げ方式になるかと思えます。ただマイナスをプラスに転じるような政策は、国がよほどの抜本的な例えば、企業の本社機能の移転を義務化するとか、東京圏域から地方への人の流れをつくるなど、そういうようなことでもない限りちょっと厳しいのかなと、これにつきましては非常に目標となるデリケートな数字ですので非常に慎重にこれから基本計画・実施計画を事業をうちながらどのようなエンジンにどれだけお金をつぎ込みながらということをやりにながら推計値を慎重に決めていきたいということで、非常に興味深いと思えますが我々にとっては非常に苦しい数字の出し方になるということをご理解願いたいと思えます。

柴田参事兼課長補佐

併せまして先ほど私の説明の中で石破地方創生大臣が就任され、秋の臨時国会において、「まち・ひと・しごと創生法案」が審議され、いわゆる地方創生法なる法律が成立した後は、おそらく各県秋田県なら合計特殊出生率を今1.37ですけれどもこれを希望出生率として、1.8まで上げるとか、そこら辺までもドラスティックに踏み込んでいくように聞いております。こういったことをして1.8、要するに女性が一生の間に子どもを産む数ですけれども、出生率を2.1まで伸ばさないと日本が成り立っていかないというか、若返りはできないだろうという学者さんの話もございます。こういったことも加味しながら、県の総合戦略、国の流れも注視しながら、総合的に将来人口といったものについて示していきたいと考えております。よろしく願いいたします。

渡辺会長

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

B委員

見させていただいて正直なところ一生懸命考えた割に特徴が出てないなという非常に申し

上げにくいことを言わざるを得ないのかなと思っているのですが、この中で由利本荘ブランドという言葉が出て参ります。その由利本荘ブランドって言われているものの中身というのはどういうものだと考えるものなののでしょうか。つまり、例えば町の将来像が9ページ目にありますね、一番骨子としては将来的にこうなりたいということを書いていて、人と自然が共生する躍動と創造の都市ということになるわけですが、おそらくこれ西日本に持っていったって沖繩に持っていったって全く同じことがそのまま当てはまってしまうようなことで、全く特徴がなくなってしまう、じゃ由利本荘のブランドを考えるとというのがおそらく唯一この地域というものを全面に出していくような将来像になると思うのですが、そのブランドというのは一体どこにあるのだろうかという風に作られた方が思われたかということなのですね。そこをちょっと教えていただきたいのですが。

柴田参事兼課長補佐

ざっと見るとどこの自治体も同じことじゃないかなという印象を多分持たれると思います。確かに他市町村と比べてみれば同じに見えるかもしれませんが、今回かなり突っ込んで文言やキーワード的にも由利本荘ブランドという言い方、それから新たな由利本荘市の進化、躍動と創造のまちもあるのですが、これらについては、市民の各界各層からなる新たなまちづくり検討委員会の皆さんからの意見も反映したものです。ブランドとは何かということでございますが、例えばまさにB委員が研究されています地域の宝である秋田県立大学本荘キャンパスでありますし、あそこに常時学生さん一学年240人かける4学年960人大学院入れて千人以上B委員のご家族も合わせれば1500人以上こういったものが若い世代の力として常時永久的におそらくあるというようなこれが第一の由利本荘ブランドであると、あるいは秋田県の子どもたち7年連続の抜群の学力日本一ということもあって、教育立市、年間最近ですね、大阪特に西日本の方から教育関係者の皆さんが市内の小学校・中学校を視察に来ることが増えました。急激に増えました。年間でいきますと500人超えるぐらいの学校の先生、校長先生、教育委員、議会のみなさん合わせますとこれら経済波及効果を考えれば結構なものになると思います。あるいは電子部品デバイスこれまで培ってきた産業集積こういったものもブラッシュアップしながらまたこれも由利本荘ブランドになるだろうとあるいは久しく合併してから由利本荘の観光は何かと目玉はなんだと言ったときに地域団体商標、地域ブランドになっている秋田由利牛もございまして、こういったものも磨きをかけていかなければなりませんし、検討委員のご意見の中には、鳥海山の伏流水を生かした美味しい水、これも売り物になるのではないかとかというアイデアがいろいろ出ております。ということで結論から申しますと、由利本荘ブランドというものをこれから作り上げていくということに集約されると思います。新たなまちづくりの実現に向けて、さらに市民、企業、団体、行政これが一丸となって由利本荘ブランドというものに取り組んでいくことが肝要であると考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。

原田課長

B委員がおっしゃられるとおり、この基本構想というのはどこの自治体を見てもといても10年間の進むべきある程度網羅的な政策の方向性が示されているというのが基本構想なものですからそれに一つ一つ特徴を付けるというのは中々ない、更にこの後に5年ごとの基本計画、実施計画これで例えば雇用を生み出すためには由利本荘ブランドとしてのこの事業をやっていくとか、どんどん特徴が付けていかれると、ですから今ちょっと言ってみれば原稿用紙のマス目が配られたと、これにやっと字を入れていくという作業に入りますので、同じ色の原稿用紙だなおっしゃられるその気持ちもわかりますし、我々も作っていてこれだったらどこの町も同じだよと行政を預かる以上はある程度網羅的なところはあると、ただこれに計画段階でどれだけ特徴をつけていくかということですのでみなさんのご意見をなんとかお伺いしたいというのが今回の趣旨です。よろしく願いいたします。

C委員

各地域のところを見ると非常に減少が極端に少なくなってくる若しくは国でいうと都会の方に人が移動するように本荘地域の方に人が移動してその減少が地方っていいですか、山間部の方にいくのではないかなというように考えられますけれども、この各地域のどういう特徴を持たせて例えば何かの拠点にするのか、それとも同じような考え方では中々できないと思うので、そこら辺の捉え方をどうするのかなということと、先般人口減少の大きな問題として、職場がないとか、収入が無いために結婚ができないとか、それから子育てするにしても収入というのが入ってくるので、いわゆる生計を立てるためにそこのところをどういう風な形で計画の中に盛っていくのかなというのが現状に対しては一番心配なところかなと思っています。

企画調整部長

地域別に人口を見た上でのいろいろなご意見であろうと思います。それで市長がよく言っております均衡のとれた各地域、均衡のとれたバランスの取れた発展を目指しているということを常々市長も申しております。今回の計画策定に当たって、それでは各地域合併前の市町の事業をどのように配分するかといった具体的な疑問が上がってきた訳なんです、合併後10年近く経過してございまして、事業の配分といったようないわゆる予算の配分と言ったような地域ごとの配分と言ったような根拠が薄れてきましたので、できないだろうと考えました。その代わりにその地域の発展をどのように支えていくかということですが、先ほど申しましたように地域ごとの基本的な方向性を示したまちづくりビジョンを各まちづくり協議会と確認の上定めていただきたい、このように考えています。その地域別まちづくりビジョンというのは、やはりその地域の特徴に根ざした発展の方針でござい

ますが、それと同時に由利本荘市全体の発展のためのその地域の果たすべき役割そのようにも取れるのかと考えております。そういうことでありまして、地域別まちづくりビジョンが定まった段階でその方針に近づく事業を貼り付けて参りたいこのように考えております。ですから通常市民が平等に受ける福祉、あるいは教育そういったものは当然ながら全市民に網をかけるのでありますけれども、地域別の整備方針によってその特徴を生かした政策がそういう風な手法によって策定できるのではないかと、このように考えております。もう一つ職場の関係ですね、それは本当に大変な課題でありまして、職場がないというのはかなり前から市民からの指摘もございましたし、以前から市の主要施策の一つ雇用の場を作るというのは市の主要施策の一つであろうと考えてきました。県の工業団地等を活用した誘致活動や、市の貸し工場を利用した誘致企業なども進めてきましたが、現在の経済状況の中で中々雇用を大きく確保できる企業の誘致というのは現実的に難しい、このままでは難しいというのが現状でございます。なおかつ市が単独で努力しても中々難しいだろう、今後も難しいだろうという風に予測されます。一つ期待をしているのは、国策でそのような具体的な方策が対策が出てこないかこういったようなことと、もう一つは地域の資源を生かした産業を興せせないか、この観点に絞ってこの次の計画を策定して参りたい、このように考えております。地域の資源と申しますとやはり頼るところは農業であり、あるいは鳥海山を中心とした観光であり、そういったところだろうと思っておりますが、いまのところまだ具体的な計画策定については今後詰めて参りたいと思っておりますけれどもその策定段階でもいろいろな方からの意見をいただきたい、このように考えております。以上でございます。

D 委員

ご説明の概要につきましては、尊重するものでございますが、10ページのまちづくり重点戦略先ほども触れておりますけれども、下に降りてきて4つの戦略だとその戦略の具体的な下にぶら下がる、私たちサラリーマンでは戦略の下に戦術というのがいっぱい出てくるのですけれども、行政では政策となるのですか？よくわかりませんが、それが来年の3月までにいろいろな協議会等の意見を聴きながら10カ年の総合発展計画に示してまとめるということで、10年間の戦略・政策が決まるという流れのようです。それで、その流れは見たのですけれども、地域に生活しているレベルでしか立派なことは普段は考えていないわけですが、行政と地域との懇談会があります。そうしますと、行政から当局の説明者が来て地域のみんなからの意見という風な物に対して回答を頂いていきます。その中で私2年間町内会長をやってきて、気になるのは、その要望に関しては総合計画に載ってないので、とてもじゃないができませんという説明がほとんどです。それで私作戦を考えたわけですが、それじゃ、自分の住んでいるところの生活者の要望は総合計画に載るように要望すればいいのかなと単純に思うわけです。その辺は行政の方にも地域要望として各町内から要望上がってますよね。由利本荘市何千という項目だと思

ますけれども、それらが検討されて総合計画の中で揉まれる場面というのは本当にあるのか、その話をお答えいただきたいのと、あとはテレビとか新聞で盛んに流れておりますが、人口がどんどん増えているところもあるわけですね。島根、この前NHKでやりましたけれども、そうしますと私の発想から言いますと、全く裏表というか革新的な対策を町長とか市長がやっているわけですね。来ると、土地も家もただだよと、我々はそんなことどうしてでできるのかなと思うわけですが、さっきの説明でも中々予算つけてやることに限りがあるというような説明が多いわけですが、でも増やすにはそれぐらい革新的なアイデアとか発想がなければこれはやっぱり周りとか隣の程度の対策では中々終わってみて反省するようなのですね、計画にならないようにして頂きたいなという風に思います。あと一つよく出てくる言葉がありますけれども、コンパクトシティという言葉が出てきておるようですが、具体的にラジオで町長が具体的なコンパクトシティ構想の内訳をお話しておりましたけれども、例えば東由利とか中山間地域ではどんどん減っていくと、そういうところの医療とか生活のための買い物とかそういうものどうしていくのだと、高齢の生活者はあるところを集めて、そこでいろいろ歩いて5分くらいのところで、衣食住それから健康とかも叶えられるような構想として話しましたが、コンパクトシティというのは、この10年間では取り上げないで10年先から20年後30年後あたりに検討されるということなのか、その辺のところをお話いただきたいと思います。以上です。

企画調整部長

最初に今まで継続して要望しているといいますか、今まで出されている地域要望がどのように計画に反映されるかといったような話だろうかと思います。特に多いのはやはり建設部関係の道路あるいは水路、そういった公共施設の整備の要望が多いという風なことで認識しております。毎年毎年町内からの要望、あるいは地域座談会での要望につきましては、担当の方で把握しておりますし、いつから要望があるかといった経過もちゃんと記録として残っております。今後先ほど申しましたように、そういった細かい事業実施の計画につきましては、5年スパンで計画を立てまして、1年毎に見直すといったような具体的な運用となります。単年度単年度の予算にはおのずと限界があるといいますか、限りがありますので、計画的に事業を貼り付けるわけですので、緊急性などにより途中で変更する場合には毎年度毎年度見直しして参りたい、と言う風にそういった手法が現実的と考えております。先ほどお話しがありました地域要望については、十分担当課の方、担当部署の方で認識しながらこの計画の策定に努めているというところでご理解いただきたいと思います。それから人口減少対策で、人口が増えているといった例もあるということですが、実際にそういった報道もございますし、そういった報道内容が市にとって人口増に対する、人口対策として有効なのかどうかそれぞれ地域の特性がございます。持つ面積の広さだとか、あるいは産業構造だとかあるいは社会インフラの整備状況だとかいろいろな地域によ

って状況が違うかと思えます。人口減少対策は、今のところ先ほど説明いたしましたように、どのように抑制をするかこれが現実的な視点に立った対策だろうと今のところ考えております。そういう風な対策が功を奏して人口増という風なことも夢ではないのかもしれませんが、今のところはいかに人口減少に歯止めをかけるのか、こういったような現実的な視点に立った対策を立てて参りたい、このように考えております。それからコンパクトシティの考え方でございますが、これは以前からそういった構想が国からも出されて、市では定住自立圏構想といった構想をこれは人口が減少する中で地域に住む人たちの生活それをいかに守るかといったような対策をたてた構想でございますが、それにつきましては、由利本荘市を一つの生活圏域、市民を一つの生活圏域と考えた場合に、高次な都市機能、高校だとかあるいは総合病院といった高次な都市機能については、中心地域に集約させた方がいいだろうという一つの考え方でございます。それで周辺地域の方々はそれにどうやってアクセスするかネットワークを築きながらそれにいろいろなサービスを受けられるようなネットワークを築くこういったような一つの構想でもってまちづくりをしているところでございます。各旧合併前の一市七町毎にそういった施設を建設しよう、あるいは配置しようとしても中々現実問題では無理だろうという風に考えておりますので、今後コンパクトシティといったような施策でございますが、定住自立圏構想に基づきそういった基幹的な施設については一箇所にまとめつつ、ネットワークを築きながらそれに周辺の方々のアクセスを確保する「集約とネットワーク」という基本的な理念に基づいて進めて参りたいこのように考えております。以上でございます。

渡辺会長

ありがとうございます。いろいろと人口減に関しては頭を悩ますところなのですけれども、その他に基本構想についてご質問等ございましたら、はいどうぞ。

E委員

こういった会合何かの広報のことについてお伺いしたいのですが、私たちのまちづくり協議会や何かの内容についても一般の市民の方はほとんどわかっていないと思えます。こういうものを作る時には、プロセスというのが非常に大切だと思います。進捗状況、実施計画を含めてなのですけれども、市の広報やなにかで我々がやっているようなことあるいはこの他にもいろいろあると思うのですけれども、定住圏構想の内容についても一般の市民の方はほとんどわからない、何やっているのかさっぱりわからないし、結果として後で突然こうでした、ああでしたというのが出てくるかと思えます。それのところで、広報にこういった今日の内容なんかについても議会や何かの承認を得ないと決定ではありませんので出せないかと思えますが、あくまでも途中経過でありますと、こういうことをやってみますよということを知っていただいて、その中から市民の方からもいろいろな提案や意見も出てくるのではないかと思いますけれども、いかがなものでしょうか。

柴田参事兼課長補佐

E委員おっしゃるとおりでございます、何事につけてやっぱり行政の政策事業については顧客であります市民のみなさんの市民満足度も大事であるということで、今回の新創造ビジョンには基本政策のところにも市民役の地域づくりと市民満足度の高い市政経営をしたいということでございますので、パブリックコメントも含めながら広く幅市民の皆さまの意見もお伺いしたいと考えていきますのでよろしくをお願いします。

渡辺会長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。はい、どうぞ

F委員

先ほどコンパクトシティの話があつてそれは定住自立圏構想の中でやっていきますよというご発言だったんですが、これはかなり重大なことだと思うのです。つまり、都市の機能が都市のまちづくりの根本が新創造ビジョンの基本構想ではなくて、定住自立圏構想の中で語られているという話になるので、最上位としてこの構想が位置づけられるのだとしたら、当然その定住自立圏構想というものを踏まえてそこが盛り込まれていないといけないという話になると思うのですが、そこは必ずしもこの中に盛り込まれてないですよ。そこがあるというのでよくよく考えてみたんですが、こうあつたらいいよねという話しは出てきているのですが、どういう方向でそういったらいいのかという方向性について、本来基本構想を出すべきはずなのですが、そこがやはりないというのは多分見た人にとってはかなりフラストレーションが貯まる問題なんじゃないかなと思うんです。つまり、細かい所は5年5年で決まりますよっていうのは確かにそういうところはあるかもしれませんが、じゃあどうやってという部分はやはりこの構想の中で出すべきなのではないかと思うのですがいかがなものでしょうかね。

柴田参事兼課長補佐

内容をお話しますと、定住自立圏構想の具体的な政策事業の展開については共生ビジョンというものがございまして、こちらも市民の各界各層からなる共生ビジョン懇談会がございまして、その内容を踏まえて平成22年度から26年度までの5年間当初の定住自立圏構想の共生ビジョンありました。次期共生ビジョンをこれまたただ今策定作業中ございまして、段階としてはこちらの基本構想基本計画が上位です。具体的な戦略課題整理となりますと、定住自立圏構想となりますので、形成方針の変更の場合は、議決を要しますので一緒に併走しながらやっているところがございますけれども、具体的にはまちづくりの基本政策にございます環境・快適・安全が共生する基盤整備これが社会インフラにもつながりますし、他の基本政策の中にもコンパクトシティいわゆる定住自立圏構想の考え方の

大本になる基本政策のエッセンスは、このまちづくり基本政策に積んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

渡辺会長

よろしいでしょうか。ありがとうございます。他にございますでしょうか。今日は新創造ビジョンの基本構想ということでご説明をいただき、お話を伺っているとその後基本計画というのがございまして、そこでよりもっと明らかに具体的なことが出てくるのではないかなというように理解しますが、よろしいですか。今日の基本構想について何かご質問があれば。どうぞ

G委員

ついでで申し訳なのですが、全く係わりないことになってしまうかもしれませんが、由利本荘市は広大な面積です。山林農地減反始まって以来再耕起して農地の有効活用とか言われてきてますけれども、中々行政の思ひいたるところにはなっていないと思ひます。で、山間部がどんどん減り続けて、本荘に集積して人口的にはそれなりのバランスが取れたとしても、中山間地帯の荒れ果てた土地をどういう風にして再活用、再利用していくかということも将来的には大変な問題になるのではないかなと思ひますのでそこら辺もしっかり計画の中にビジョンとして組み入れていただければと思ひますし、もう一点は減り続けることは、人口ですけれども、予測できることでありうるという風な説明と受け止めましたけれども、ただ意思だけでもいいですので、ここ10年でストップをかけるのだとそれから一人でも二人でもやっぱり増やしていくという風な行政マンの皆さま方の当局の皆さま方のしっかりした考えが無いと私はおぼつかない計画になってしまうと思ひますので、厳しい中で大変失礼ですけれども、私たちもできることは地域住民、町内会としてやっていきます、でもどうしても行政に頼らなければならない部分というところが出てくるわけなので、先ほど話し出て参りましたけれども、今の10年の総合計画の中に載らなければ我が町内の要望事項も20年30年に先送りされるとそうなれば我々はもう石の下だという風な考えをおっしゃる方もいらっしゃると思いますので、お金のかかることではあるかと思ひますけれども、効率良いお金の回し方をしていただき、我々のやっぱり住環境の整備に努めていただければなと思ひますので、とりとめのない話しですけれども、以上よろしくお願ひしたいと思ひます。

渡辺会長

よろしいですか。どうぞ。

H委員

人口減少ということで、いろいろ言われてるのですが、企業がまずないと、企業がなんで

本荘にないのだろうと言ったときに、交通網が、道路網ですか、そういう物が発展してないと、東京から見たらここに企業を出そうという意識を持ってないと思うのです。企業が、そういう面どう捉えているのか、いわゆるただ人口を増やすというのではなくて、企業をどうやったら持って来られるのだろうと、流通面、見てると秋田へ来てる業者というのは岩手とか山形から運んできてるのですよね。県内で動きまわっている業者ってあまり少ないのですよね。そういう面を見てると、首都圏にある本社機能の企業を持ってくるには、道路網、高速道路をつぎはぎですから、完全にやってもらうことが専決じゃないかなと新幹線にしても、せっかく300キロと走らせていながら、県内は120キロそういうことをやっているの、その辺の遅れていることが一番問題点、人口減少になっているのではないかと、それから見てると昔は岩手県が東北の過疎県と言われたのですが、今秋田県が過疎県になってるのですね。東北で。やっぱりそういうのを見てると、首都圏から見ると違いが全然ここにいないと感じないのですが、向こうから見てるとそれが明らかに見えるのですよね。企業にしても、就職にしても、首都圏にある業種が秋田県にないのですよね。東京へ一回出て行って、いろんな仕事をしてやってみると、秋田県にない業種にぶち当たるんですよね。そうすると向こうでそのまま働いてしまうと、で戻ってきてまた働きたいと言っても40代の人が働けないのに、60代が仕事あるかってそれから賃金の問題もあります。今ここはまるっきり、千円まで行ってませんから、向こうは確実に時給にしたって高いですから、やっぱり戻ってきません。戻るという意識そういう面で無くなってしまいます。ですからそんなこともどうなのかなという市としてそういう面も考えられてるのかなと、それからせっかく鳥海山という立派な東北で一番高い山と言っていいと思います。これがあるのに、どうして鳥海山を活用しないのか、それから地元にある由利鉄これをもっとPRしてマスコミを呼ぶような方向で本荘という名をどうして売らないのかなとお金かけるところはかけてやってほしいなと思います。最初から大企業が黒字で経営しているわけではないのですよね。最初の2、3年はみんな赤字なのです。大企業になるにも。本荘だって最初の2、3年は赤字になったっていいと思います。その代わり、そこを転換して黒字になれるようなPRなり、もっと運動をすべきじゃないのかなと、いわゆる我々がどうこうじゃなくて、その辺の持って行き方が必要じゃないのかなと思います。以上です。

渡辺会長

はい、ありがとうございます。他にご質問ありませんでしょうか。もしなければ次の(2)のその他の次回開催についてお願いします。

次回内容説明（地域おこし課：菅野班長）

～説明～

渡辺会長

期日は後で連絡ということでよろしいですね。その他何かございますでしょうか。そうすれば私の司会終わらせていただきます。

今野課長

本日は予定した時間オーバーしてしまいましたけれども、以上をもちまして本日の本荘まちづくり協議会を閉じたいと思います。次回につきましては、先ほど菅野の方からご説明しましたけれども、次期総合計画の進捗によりましては、その案件を少しお願いするかもしれないのでまたよろしくお願ひしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。